

針葉樹も平気まきストーブ製作

岡谷の2社 燃焼効率を高め すす、やに抑える

針葉樹を燃やしても煙突に効活用できるとしている。

すす、やにが付きにくいとい
つまきストーブを、岡谷市本
町の設計会社「Lab(ラボ)」
らんと同市赤羽の曾根鉄工所
が共同製作した。炉の構造を
改良して燃焼効率を高め、煙
突を通してすすを減らした。該
初地方でも間伐材として大量
に出るカラマツなどの針葉樹
は広葉樹に比べてまきには数
倍されがちだが、これらを有
効活用できるという。



曾根鉄工所内にあるストーブにカラマツのまきを入れ、燃え具合を確認する村木さん(右)と曾根さん

もう一つの特徴は水を使う
こと。燃焼炉下部に水をため
る溝を設置。熱で発生した水
蒸気が、炭化したまきと化学
反応して可燃性ガスの水素と
一酸化炭素を発生させ、これ
が補助燃料となって燃焼を促
進する。不完全燃焼を防ぎ、
やにの付着やすすの発生も抑
えられるという。



燃焼炉の下部に設けた通風口。2カ所に作り、炉内で「旋風」が起きる仕組みという

村木さんが機械工学の知識
を生かして設計し、曾根鉄工
所代表の曾根孝一(37)
に製造を依頼した。製品は現
在、同工所内で使用中。すす
ややにが減る実証データはな
いが「煙突から煙が出ていな
いのが状況証拠」と村木さん。
曾根さんは「仕上がりが全て
も満足。一般家庭のリビング
に置いてほしい」と話してい
る。販売価格は1基5万円(煙
突を除く)。問い合わせは村
木さん(宮24・0897)へ。



版名 語言 学力単生 「語言」 番号「1」E